（別紙4）　　平成　27　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3393600055		
法人名	有限会社　フロンティア		
事業所名	グループホーム勝央		
所在地	岡山県勝田郡勝央町植月中2423-1		
自己評価作成日	平成27年5月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=3373600398-00&PrefCd=33&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド　岡山支社
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22　本町ビル3階
訪問調査日	平成27年6月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者は、高齢になり、身体も思うようにならないことも多くあります。
今できることを楽しみながら、生活ができるように、趣向を凝らして地域行事に積極的に参加します。
できるだけ、今までの暮らし方を大切にし、季節や習慣に合わせた献立を考えて「楽しく食べる・生きる喜び」を支援します。
「ここにいて良かった」と、本人・家族が思えるように支援します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業開始から13年目を迎え、保育園の運動会に招待されたり、保育園児や小学生が慰問に訪れ、子供神輿が立ち寄り、近所の方が七夕様の竹を届けてくれる等、地域との良好な関係が築かれている。
玄関に入るとボランティアが活けた季節の花が迎えてくれ、居間には植月中文化祭に出展したちぎり絵の大作が飾られていた。日中は、体操、塗り絵、縫い物、ちぎり絵、家事等、残存能力の継続維持に努めている。
勤続年数の長い職員が多く、協力し合いながら、自分の実の親を世話する気持ちで、利用者を大事にしたいと日々支援に努めている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は、自覚と責任感を持ち、理念に沿った対応を心がけて、実践している。	体操、手芸や工作のレクリエーション、家事等を手伝う利用者の姿を見ると「残存能力を尊重し」という理念の実施が見て取れた。また家族がここに預けて良かったと思える第二の我が家を目指し、日々介護に務めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流を積極的に行い、地域の保育園・小学校などの慰問もある。地域のお祭りや文化祭などの行事にも参加している。	地域との交流は盛んである。小学生は自分達が植えた芋を持って遊びに来てくれ、お礼に利用者手製の箱一杯の雑巾を寄贈している。更に、中学生の職場体験では、自家栽培した芋を一緒に収穫し、利用者と仲よく食す。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場体験・地域の文化祭など、機会がある毎に、認知症の理解をしていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の町内役員さんの協力を得て施設の改善や方法を助言していただいている。	家族の意見を聞く機会と捉え、毎回同じ方にならないよう参加を呼びかけている。県外に住まいの家族が、運営推進会議の当日に帰郷していた為、出席をお願いした。機会を逃さず、家族への出席に力を入れ、意見交換の場としている。	住居が遠方や仕事の関係で、家族に対する参加の依頼を躊躇していたが、色々な家族の意見を聞く機会と考え、今後も参加の呼びかけに力を入れたいとの事。期待している。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、出席していただいて、ホームの実情を理解していただいている。困難な時は、相談援助をいただいている。	町との関係は良好で、困った時には電話で相談をしている。運営方法など困難なときは指導して頂き、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、ミーティングで、取り上げ、利用者の立場に立って、身体拘束をしない取り組みを行っている。	安全確保が出来ない場合は身体拘束はやむを得ないと考えているが、骨折した利用者も見守りに徹し、身体拘束は行っていない。数分おきに立ち上がろうとするが、危険が及ぶ前に対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	ミーティングで取り上げ、虐待に繋がらないようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用されている方もおられ、必要時に利用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は管理者が行い、運営規程・重要事項説明書などの説明を行っている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	できるだけ、運営推進会議に参加していただくようにしている。	毎月の請求書に、利用者の様子を知らせる便りと写真を同送し、家族からはその都度意見を伺っている。利用者の変化時等、電話連絡はこまめに行い、面会時にも話す機会を設けている。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングなどで、改善が望ましいと判断した時は、管理者が、直接オーナーに相談している。	職員の意見は出勤希望や運営等反映されている。例えば、誤嚥する利用者に対し、職員の提案で食事中の椅子を代えた。また、去年7月から法人が代わり、代表者がこまめに事業所に足を運んでくれ、距離感も縮まり、さらに意見が言い易い環境になった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務希望などを優先している。資格取得には、協力し資格が取得できるように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアの質の向上、認知症の理解など、意欲のある職員には、研修参加を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流の機会は少ないが、津山地域の研修会などで情報交換の機会ができるよう配慮している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族や本人から困っている事や、希望をたずねながら、寄り添い馴染みの関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いや、困っていることを聴きながら、思いに添うよう、より良いサービスの向上に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の様子を尋ねながら、どうしたら利用者の幸せか、介護者が困らないかを一緒に考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の持てる能力を発揮してもらい、人生の先輩として助言をいただきながら、できることを一緒にしていただきいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の様子や生活の様子をお伝えしている。また体調に変化があるときは、その都度連絡している。通院介助などできるだけ家族の協力をえて情報を共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の習慣を尋ねながら、行事に積極的に参加している。	地域毎に風習が異なるので、利用者に季節の行事を確認し食事等に取り入れ、昔を懐かしんでもらっている。家族との外出時に、馴染みの美容院でお気に入りの髪型にセットしてもらう利用者も居る。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者がお互いを労り和やかになるように、ボール遊びなどを行っている。洗濯ものたたみなど、できる方には、指導していただく場面を作っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られても困らないように、必要な情報提供を行い、情報提供に努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や表情から本人の意思を汲み取るようにしている。意思の疎通ができないときは、家族と相談しながらより良い方法を見つけるよう努めて対応している。	居室を見回る際、起きている利用者には声かけを行い、会話をし、不安等を訴えた場合は「大丈夫ですよ」と優しく話しかけている。また声をかけた時の利用者の表情で、思いを汲み取り対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーを尊重しながら、生活歴を尋ねて家族や本人が納得できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズム、日常の過ごし方、その日の状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思いを尋ねながら、家族の要望や意見を尊重し、思いが実現できるよう努めている。モニタリングは、職員全員で行い、より良いケアの反映ができるよう計画書の見直しを行っている。	詳細にまとめたアセスメントを基に、家族や本人の意向を踏まえた計画を立てている。モニタリングも職員全員で定期的に行い、現状に即した介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルに、バイタル・食事・水分量・排泄の様子・生活の様子や、エピソードを記録している。職員間で情報を共有しより良い介護計画の見直し・実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の実情に合わせて、通院や個人的必要物品の購入など、相談しながら柔軟に対応している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事に積極的に参加し、保育園の慰問・小学校の慰問を受け入れながら、楽しく生活ができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、入居後も変更しないで、馴染みの医師の訪問診療を受けている。かかりつけ医には、職員も相談・助言を受けている。	利用者の状態を一番把握している管理者が病院に付き添い、現在の症状を詳細に伝え、最善の治療方法を医師と話し合い、対応してもらっている。投薬を工夫したことで、元気になった利用者も居る。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、健康管理や状態の把握など、変化に応じて受診などの対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、日常の生活や経過などを詳細に連絡し、対応が適切に行えるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の望みをかなえられるように配慮し、ホームでの対応が可能な範囲を理解していただき、誠実な対応に努めている。	先日利用日数が短かった利用者の看取りを行った。医療機関から紹介されたがん末期の患者で、介助をする度に「ありがとう」「ここは天国だ」と言ってくれていた。今後も、家族や医療機関の協力があれば、看取りも対応したいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員が応急手当てができるように救命救急講習の受講をしている。急変時には、看護師の指導を受けながら対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣のホームとの合同の避難訓練を実施し、全職員で災害時の対応を理解している。地域の消防署・消防団にも協力を依頼し、実情を把握していただいている。消防設備事業者には、適切な器具の使用法などの指導をしていただいている。	隣接するグループホームとは、合同で避難訓練を実施したり、緊急時には、スイッチ一つで通知出来る協力体制を築いている。そして年末の消防団による夜警活動時には挨拶に出向き、協力を仰いでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを尊重し、情報収集に努め、本人の思いを大切にし、自己決定しやすい言葉かけ、さりげない介護に努めている。	羞恥心を大切にし、排泄を失敗した場合も、大きな声を出さず、素早く、そしてさりげなく他の利用者に気付かれないよう交換する。また、守秘義務を徹底した書類管理をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話や表情から本人の希望を尋ねながら、いろいろな選択肢を提案し、自己決定を促している。自己決定ができないときも職員の都合を押し付けないように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせ職員は待つ姿勢でケアを行っている。その人らしい暮らしや、普通の生活を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定のできる方には、その日の衣類を決めていただいている。訪問散髪なども利用し、実情に合わせて行っている。身だしなみに関心が持てるよう声かけを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	能力により、食事の準備・配膳なども一緒にしていただく。片付けなども一緒にしていただくこともある。	昼食を一緒にしたが、残食がほとんど無く全員綺麗に食べていた。職員が利用者に合わせ、味・見た目・硬さ・量に気をつけている結果である。以前食事を全介助していた利用者に、食べる意欲を引き出す為、ご飯物をおにぎりにして提供した。現在は自らの力で食事を取ることが出来る様になった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食欲や体重の増減を見ながら、食事の量を調整している。献立や調理を工夫し、満足ができるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。能力に合わせて介助を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は、排泄誘導表をつけて、一人ひとりの排泄パターンを把握しながら、トイレへ誘導介助を行っている。夜間は、利用者の様子を見ながら誘導介助を行っている。	おしめを使用した場合、利用者が不快な思いになる為、トイレでの排泄を基本としている。トイレには、温めたタオルを常備し、朝の排泄や失敗時には、清拭を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のリズムを把握し、水分が十分摂れるよう工夫したり、食物繊維が多い食品や献立の工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	大まかな入浴日は決めているが、本人の希望を優先している。	三日おきに入浴を行い、重度の方も二人介助で湯船に浸かる様にしている。浴槽を跨ぐ事が困難な場合も、シャワーチェアーを利用して入浴してもらっている。ゆずの季節には、近所の方や利用者家族がゆず湯に使ってと、持参してくれる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活のリズム合わせて休憩や入眠ができるように環境を整えている。安眠に向けての生活のリズムを大切にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの能力に応じて服薬介助を行っている薬剤師と相談しながら飲みやすいように粉砕するなど工夫している。薬の変更や状態は、全職員に申し送り医師と連携して状態の改善に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	能力に応じて役割を持って頂き、達成感を味わうことができるように、得意分野の仕事を一緒にしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り外出の機会を設けている。買い物や支払いに出かける時も同行し、気分転換ができるように支援している。	年々利用者も重度化しているが、自力で歩ける方とは一緒にスーパーやホームセンターに買い物に出掛けている。花見やひな祭り等のイベントは、全員参加してもらっている。保育園の運動会には、事業所と保育園を何度も往復し、出来る限り利用者を連れ出している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金管理することは出来ないが、一緒に買い物に行ったり、物の値段を見る、買いたいものを選ぶことはできる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話をつないだり、希望されるときは電話をかけることもある。住所の記入を介助して、手紙書くこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は、いつもボランティアにより、季節のお花がいけてある。居心地の良い空間づくりに努めている。	事業所の敷地にある畑には、利用者家族が持参してくれた苗を植え、自家栽培を楽しんでいる。以前は居間にソファーを設置していたが、車椅子の利用者が増え、危険防止の為、居室に移動させ寛いでもらっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあった人同士が、テーブルを囲んで話し合ったり、お互いの居室を訪問するなど自由にすごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の思い出の品や、作品を飾ったり、居心地の良い空間づくりに努めている。	自分で購入したお気に入りの絵や、趣味で折った鶴や塗り絵を飾り、自分好みの部屋作りをしている。利用者が使いやすいようにベッドの高さも工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ひとりひとりに合わせた安全な環境にしている。衣類など出しやすいように、整理整頓を行っている。居室には、目線の高さで名札をかけている。		